

現代における生活と衣服との関連について (第2報)

女子大生とジーンズ

荻野千鶴子・酒井清子・早坂美代子

村瀬道代・沢辺恭子

On the Relation between Modern Life and Clothes (II)

College Women and Jeans

C. OGINO, K. SAKAI, M. HAYASAKA, M. MURASE and K. SAWABE

緒 言

現代の社会における、われわれの衣生活のなかに、既製服が大量に流入している。今や性別、年齢を問わず既製服を愛用し日常生活を営んでいる中で学生の衣生活の実態を握り取るため、第1報で報告したように、衣服に関する購入・流行などについて調査した結果、学生は実質面より流行への関心度が高いことがわかった。第2報として、流行の被服として、最も多くの学生に愛用されているジーンズについて、デザイン・購入年度・着用感などの傾向を実態調査したので報告する。

調 査 方 法

調査期間、調査地域、調査対象および調査用紙は第1報と同様であるので省略する。

結果および考察

1. ジーンズの変遷

第二次大戦後、アメリカ駐留軍の影響で日本へ初めてジーンズが姿をみせた。当時は、東京・上野のアメリカ横丁(通称アメ横)で米軍放出品、PX流出品、払い下げ品などの古着衣料として販売され、それをごく一部の人が作業着として購入していた。しかし、ジーンズとしての意識が芽ばえ初めたのは、1962年～1963年頃であった。その後1972年～1973年頃にファッションの多様化と消費者の要求で、日本のメーカーが外国製品のコピーをもとに、サイズ・デザインなど考案し大量に生産した。その後メーカーの数も増加し種類も驚くほど多く、子供から大人とあらゆる人達が好んで愛用するようになり、今や若者達のユニホームともいえるくらいに普及した。

2. ジーンズの素材

細あや織綿布、すなわちジーンズ・トイールといわれるニー緯斜紋のあや織となった丈夫な布染綿布のことをいい、水兵服のえりや、作業着などに用いられる。

ジーンズ特有のブルーは、元来は天然の藍を用いて染められたものであったが、現在ではほとんど化学染料によって染められている。ジーンズのファッションに用いられる主な素材を3つのタイプに分けて見ると、つぎのようになる。

(1) ブルーデニム

ジーンズのもっとも基本的な素材。

(2) コットン

デニム以外の素材，たとえば，コーデュロイ・サテン・かつらぎ・キャンパス・ジャンプ
レーなどがある。

(3) レザー・スエード

天然皮革のなめし革，革の肉面をすって，起毛して仕上げたもの。
以上が代表的なジーンズの素材である。

3. 調査したジーンズのシルエット

ジーンズのシルエットは多いが基本型はスリム・ストレート・フレアーの3つのタイプに分
けられる。そこで，現在市販されているものの中から，学生が愛用し着用している5種類を選
び調査した。その種類はつぎに示すものである。

- (1) スリム……足にフィットしたもので，若者に人気のあるシルエット。
- (2) ストレート……基本的な型で，上から下まで同じ太さのシルエット。
- (3) フレアー……ヒップにフィットし，裾広がり of シルエット。
- (4) サロペット……胸当・たすきがけの若い人向きのシルエット。
- (5) オーバーオール……上下つづいたもので，労働着に多くみられるシルエット。

4. 年代別・季節別購入状況

学生を対象にジーンズについて調査した結果“図1”に示すように最初に購入した年代は，
1970年でもっとも少なく，その理由は調査した
学生が当時中学1・2年生であったため，ジーンズに対する意識もなく，また体型・サイズ面
からも似合わないためではないと思われる。
その後徐々に増加し，1973年から1974年にかけてもっとも購入率が高い。その理由として，ジ
ーンズがファッションとして一般に愛用され，
季節別に見ると1973年の春秋が最も高いが，こ
れは流行とあわせて気楽に着られ，また活動的
であるという点からレジャー用として着用する
者が多かったためと思われる。

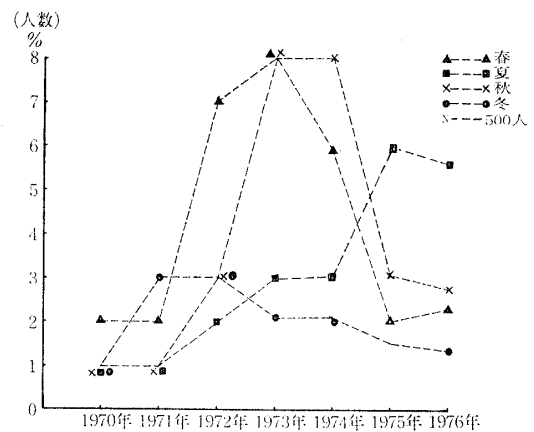


図1 年代別・季節別購入率

なお夏季には，購入率が高く見られた。その理由は，デザインの傾向としてウェストをしめ
つけないゆったりとしたシルエットのオーバーオール，サロペットが流行したためではないか
と思われる。

5. 所持枚数

学生の所持枚数は第1報において報告したように1枚～12枚で，平均枚数は約3枚であつた。

“図2”に示すように所持枚数を見ると，同じデザインを1枚～2枚持っているものが最も
多く，5枚以上持っている学生は少い。これは着用年数5年以上がいるためと思われる。

さらにデザイン別に見ると1枚の者はストレート15.7%，フレヤー12.9%，スリム11.8%，オーバーオール10.8% サロペット7.1% である。つぎに2枚持っている者，フレヤー9%，スリム・ストレート6.3%の順となっている。

6. デザイン別選択理由

学生が現在持っているデザインは，“図3”に示すようにフレヤー34%と多く，好きなデザインにおいては，スリムが41%と最も多く同一傾向ではない。これは1973年～1974年にかけてフレヤーが流行したためこのような傾向が見られたのだと思う。

スリムについては，1976年～1977年にかけて流行したデザインであるが，これは体型的に適・不適が左右されるため，デザインとしては好きでも，体型的に自信がなく購入する者が少なかったのではないと思われる。

オーバーオール・サロペットについては，1975年～1976年にかけて流行しているため，調査時ではまだ着用者も少なく，また個人の好み，体型的に合わない，なお着脱（用便）が困難という理由により購入する者が少なかったと思われる。

選んだ理由は，“図4-1”に示すように，流行・活動的をあげ，つぎに審美性・必要性をあげているのはスリム・フレヤー・ストレートで，体型をあげているのはスリム・フレヤーを，気楽さをあげているのはスリム・ストレートとなっている。

好きな理由は，“図4-2”に示すようにすべてのデザインにおいて，審美性をあげ，つぎ

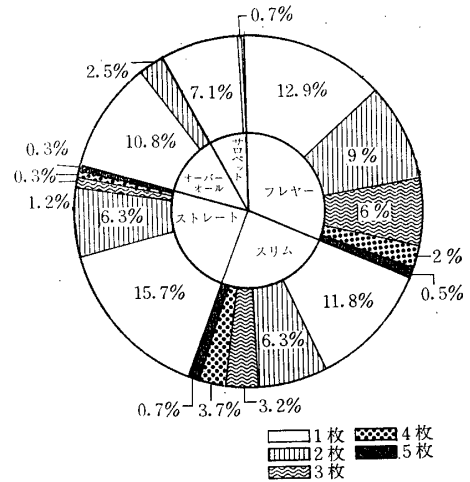


図2 所持枚数

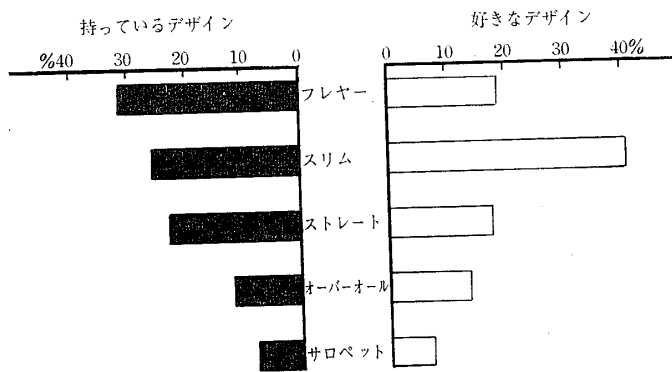


図3 デザインによる比較

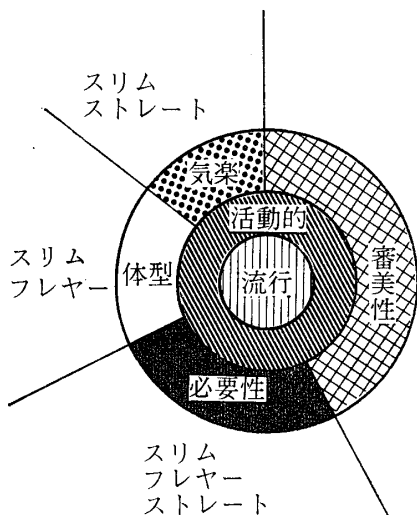


図4-1 選んだ理由

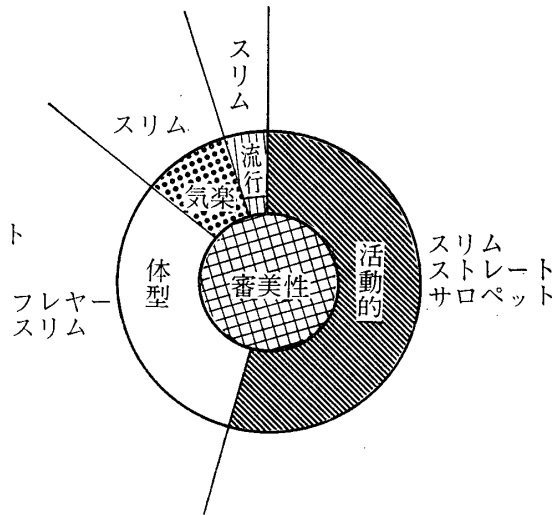


図4-2 好きな理由

に活動的をあげているのはスリム・ストレート・サロペットで、体型をあげているのはフレヤ
ー・スリム、気楽さ・流行をあげているのはスリムとなっている。

以上のことから、ジーンズのシルエットについては選んだ理由と好きな理由とは、同傾向で
はない。

7. 着用の目的

ジーンズ着用の目的について、順位を決め1位～6位までそれぞれ記入させた。その結果、
順位1位～2位においては気楽さ・活動的・手入れが簡単などの理由からレジャー用をあげて
いる。順位5位～6位においては通学服としてよい、流行だから着用したいなどの理由をあげ
ていた。

以上、利用状況はジーンズ本来の目的からか通学服より、レジャー用に多く着用している。

8. 着用感

(1) 着用時の圧迫について

人間の体は、衛生面から見るとあまりしめつけない方がよいといわれているが、学生は着用
時のカッコ良さ、ファッション性などを重点に考え、また体をしめた方を好んでいる。

ジーンズの着用感として、“図5”に示すように約90%の者が、体にぴったり合ったもの、

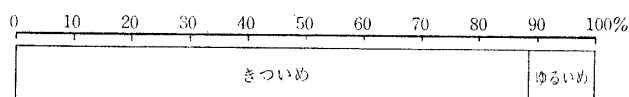


図5 着用時の圧迫感

少しきつめで、ウェストのボタンがはまればよいなどを好んでいる。これは、多少きつくてもはいているうちに布地に伸びがあるため最初はぴったりしたジーンズをはきたいと望んでいる。

(2) 姿勢による圧迫部位について

“図6-1”に示すように椅座位による圧迫部位は、大腿部・腹部・股間部（内側大腿部）

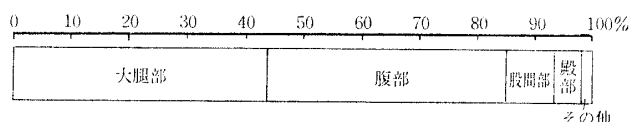


図6-1 椅座位の圧迫部位

・臀部の順に圧迫を感じている。

“図6-2”に示すようにジーンズをはいて正座する者は少ない。しかし正座をする場合の

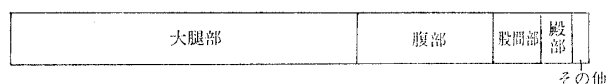


図6-2 正座位の圧迫部位

圧迫部位は、椅座位と同様で、大腿部がもっとも多く、約60%をしめ、つぎに腹部・股間部・臀部と圧迫を感じている。

9. 損傷部位

(1) いたみ・破れについて

“図7”に示すようにひざの破れを約46%，つぎに裾のすり切れ約22%，ファスナーの周囲の破れ・故障・後臀部の破れなどをあげている。

(2) ほころびについて

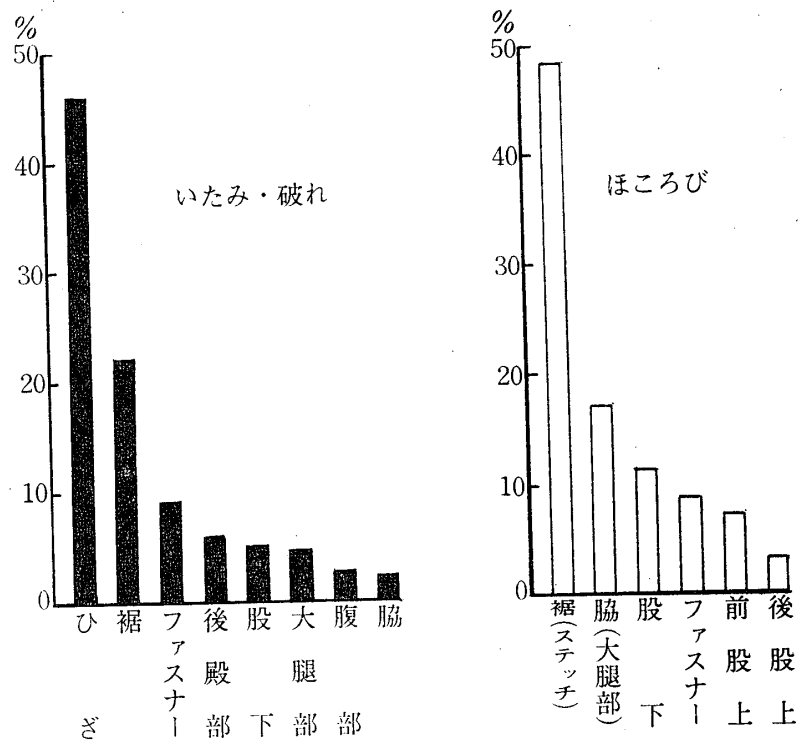


図7 損傷部位

“図7”に示すように裾のステッチのほころび(靴との摩擦による糸の切れ)約48%, つぎに脇(大腿部の位置)のほころびをあげ, とくに大腿部の発達している学生は内側大腿部のほころびもあげている。

10. ジーンズに対する所見

女子学生の通学服としてのジーンズについて学生の意識を調査したところ, 絶対に悪いと答えた学生はわずか8%であった。着装を考えればよい(組み合わせによる変化)と答えた学生は92%で圧倒的に多かった。

通学服としての良い理由の中に, 活動的・気楽さ・耐久性・汚れやしわが気にならない・他の服種にくらべて価額が安い・リフォームができるなどあげている。その中でもとくに, 活動的・気楽さを約90%の者があげている。つぎに通学服として悪い理由の中に, 夏は暑い・正座しにくい・汚れが目立ちにくいので不衛生・女性らしさを失なう・自分の体型に合わないなどあげている。

つぎに男子学生のジーンズに対する意見をまとめたところ, 組み合わせによっていろいろな着方がある, 仕事着・活動着としては気楽にはける, 個性が出せる, たとえばパッチワーク的手法によるはりつけ, ポケット・ベルトに変化をもたせ楽しむことができる, 応用範囲が広い(通学服からパジャマにもなる), 自分でも簡単に洗濯ができるなどの理由をあげている。

以上, 女子大生と活動的・気楽さの点においては同意見であったが, 女子学生に比較し, 男子学生の場合は, 生活にかなり密着した考えかたをのべている。

要 約

以上, 質問紙法によるアンケート調査, ならびに聞き取り調査の結果をつぎのようにまとめた。

1. ジーンズはいろいろ話題にあがったが、学生は好んで愛用している、これはジーンズの目的からいって、活動的・気楽に着られるためと思われる。
2. カッコ良さを好む若者、特に学生は多少の圧迫を感じてもびったり体にあったジーンズ、ファッションとしてより良いデザイン、よりスマートに見えるジーンズを望むようである。
3. 通学服としてのジーンズについて、着用の理由は、活動的・気楽さなどをあげている。
4. 今秋（1977年）のジーンズ傾向としては、ファッション性のみでなく、本来の基本型にもどり、先頃流行した裾広がりのパンタロン、起スリムのシルエット、つぎはぎジーンズ、派手な刺繍の目立つものなどは影をひそめベーシックなジーンズが流行してきている。たとえば、デザインの傾向としてあまり奇抜なものはなく、ポイントとしてポケットの大きさ、ステッチの変化など、基本型のジーンズに部分的な新しさを加えたものが流行するのではないかと思われる。

今後、素材の伸縮性・機能面・衛生面また、心理面についても研究を発展させたいと考えている。

終りに本研究の調査に御協力下さった本学学生に感謝いたします。

参 考 文 献

- 1) 関西衣生活研究会：衣生活研究，5，2～7（1977）
- 2) 若い女性，8，85～92，講談社（1977）
- 3) 暮しの手帖，50，5～19，暮しの手帖社（1977）
- 4) 服装大百科事典，文化服装学院（1969）
- 5) 服飾事典，田中千代，同文書院（1973）